

# 私論 公論



たかしま かよこ 京都女子大短大部卒。教育図書出版編集部を経て、地域情報誌編集部勤務。FM797設立と同時に、京都ラジオカフェ企画室長に就任。NPO法人遊プロジェクト京都理事長。企画監修の書籍に「京都クロスボイントー」はじめの一步の物語(富帯出版)ほか。

## 身近になったNPO 地域の活性化を後押し

特定非営利活動促進法(NPO法)が1998年に制定され、現在、京都府内にはおよそ1100のNPO法人が活動中である。

私は91年設立のNPO法人京都コミュニティ放送(FM797)理事、95年設立のNPO法人遊プロジェクト京都の理事長を務めている。FM797は、全国初のNPO法人によるコミュニティ放送局として話題になったが、現在は全国にそつした局が18もできている。

NPO法制定から10年余が過ぎ、さまざまな分野で法人化がなされ、NPO法人は実に身近なものになってきた。気軽に設立できるが故の危うさはあるものの、活動への信

NPO法人「遊プロジェクト京都」理事長 高嶋 加代子

頼度が高まるなど、やはり法人化のメリットは大きい。

遊プロジェクト京都は法人設立後、町家を改装した文化発信スペース「遊子庵」(京都市中京区)を開設。まちの課題解決に取り組むNPO団体関係者を講師に「まちづくり研究会」を開き、多くのNPO関係の仲間が増えた。

また、まちづくり活動を進める人向けのスキルアップ講座「ふるさと京都、夢・知恵・元氣わくわく塾」を2008年度から遊子庵で開催してきた。これは京都府のフラットフォーム事業から生まれた「地域力再生活動を応援する公共人材づくり研究会」が主催、事務局を遊プロジェクト京都に置いている。遊子庵を会場にしたのは、講師も参加者もフラットな車座トークを狙ったためで、参加者は延べ600人を超える。

講座を通して感じるのは、まちの課題に取り組む「初めの一步」は決して仰々しいも

のではない、ということ。特にNPOの場合には、自分の必要性に応じて始め、それが地域を動かし始める、そんな事例をずいぶん見つけた。初めの一步を踏み出すキーパーソン的重要性を痛感し、今年度は講座だけでなく「京の公共人材(みやこびと)大賞」を創設することとなった。来年1月14日に京都府庁で第1回表彰式が行われる。

京都府は北から南まで地域の特質や課題はそれぞれ異なる。遊プロジェクト京都では、いま府内で活躍中のまちづくり団体を取り上げる書籍づくりを進めているが、どの地域にもキーパーソンがいる。それは何も声高な人ということではなく、しっかりと動きだしている人だ。「京の公共人材(みやこびと)大賞」は団体への賞ではなく、まさに個人・キーパーソンに向けた賞である。

ところで「NPOは行政にとり都合がいい、安上がりな

事業委託先になっているのでは」と心配する声がある。委託金や助成金が事業終了後に支払われることも、財力のないNPOにとっては実際、大変なことだ。「人件費が計上できない助成金をもらったばかりに事業に追われ、疲れただけ」と嘆く声も聞く。団体の規模、内容はさまざまに助成金頼みのところもある。

紆余曲折はあるものの、NPO法制定以降、自分たちに必要なものを自分たちでつくり出す団体が増えたのは確かだ。「初めの一步」を踏み出す人・キーパーソンが地域を活性化させていくために、法人化がその後押しになっていることは実証された。NPOは行政、企業、大学ほか諸団体と連携を持ち、地域づくりに確実に貢献している。

先を見据えたNPOが、真に必要な、意味ある活動を始めるために、制度を硬直させることなく発展していくことを願っている。